

会 議 録

1 会議名

平成27年度第7回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

公の施設使用料の減免制度の見直しについて（公開）

【協議事項】

平成28年度地域活動支援事業について（公開）

【その他】

公民館分館から地区公民館への位置付けの変更について（公開）

3 開催日時

平成28年2月23日（火）午後7時00分から午後8時04分まで

4 開催場所

上越市立公民館 直江津地区館 谷浜分館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 高橋誠一（会長）、安達ユミ子（副会長）、小林和代、小林奎一、
齊藤 豊、坪田 剛、荷屋和夫、横田正美（欠席2名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任
社会教育課：佐藤参事、武内係長

8 発言の内容

【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋会長】

・挨拶

・会議録の確認：齊藤委員に依頼

議題【その他】公民館分館から地区公民館への位置付けの変更について、担当課へ説明を求める。

【社会教育課：佐藤参事、武内係長】

・挨拶

【社会教育課：佐藤参事】

・資料No.3に基づき説明

【高橋会長】

説明に対して意見等を求める。

(意見なし)

確認だが、谷浜分館の公民館協力員が、週3日間、桑取分館へ半日程度行き、不在時は、教育プラザから職員が谷浜分館へ来るという考えで、谷浜分館は今までどおりの体制ということでよろしいか。

【社会教育課：佐藤参事】

そのとおりである。

【高橋会長】

他に意見はないか。

(意見なし)

では、この件については終了とする。

— 社会教育課 退室 —

次に【報告事項】公の施設使用料の減免制度の見直しについて、事務局へ説明を求める。

【星野主任】

公の施設使用料の減免制度の見直しについて、事務局から説明させていただく。

本件については、昨年3月の第9回地域協議会において、見直しの方針案について、行政改革推進課から説明させていただいた。その後、市では、施設利用団体等への意見交換会や説明会などを開催しながら減免制度の見直しを行い、本年4月から運用を開始することとした。

本日は、決定した減免制度の概要について報告させていただく。

・資料No.1に基づき説明

【高橋会長】

説明に対して意見等を求める。

【荷屋委員】

今まで登録していなかった人達を重点的に登録するということか。例えば、今まで登録したことがない町内会があったら登録するということか。

【星野主任】

地縁団体については、登録は不要である。

【高橋会長】

資料にも書いてあるが、基本的には、利用者の受益者負担という考え方を入れたということである。今までの議論で、予約だけ入れておいて、後でキャンセルする、減免団体だからキャンセル料も掛からない、というケースも指摘されていた。今後は、きちんと管理するということである。

細かいことを言えば、いろいろなケースがあるので分からないが、今まで該当する団体は説明を受け、大筋の合意を得て策定しているものなので、これでよろしいか。

(意見なし)

では、この件については終了とする。

次に**【協議事項】**平成28年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【星野主任】

平成28年度地域活動支援事業の概要(案)について説明する。

2月19日(金)に市長の記者会見が行われ、平成28年度予算案が公表された。平成28年度の概要(案)は、平成27年度の概要とほぼ同様だが、「4. 提案事業と審査の決定」の『イ. 基本審査・共通審査』内の「共通審査と項目と視点」の中で、④参加性、⑤発展性の文言を一部分かりやすく修正させていただいた。確認いただきたい。

配分額についてだが、昨年同様500万円の配分額になっている。最終的には3月議会での議決後に決定となる。

次に資料No.2について説明する。

- ・資料No.2に基づき説明

【高橋会長】

平成28年度の谷浜・桑取区の採択方針等については、先回の協議会で決定した内容で問題ないと思うが、皆さんから意見等はあるか。

【安達副会長】

3月6日(日)に活動報告会があると思うが、御案内した送付先からの反応はどうか。

【星野主任】

出席依頼をした団体の半分くらいから出席の回答をいただいた。

【高橋会長】

事務局から、今まで提案をしていただいた団体等へは案内を出してもらっている。

先ほどもお願いしたが、委員からも積極的に推薦や自薦をしていただき、多くの方から声を挙げてもらうことが地域活動支援事業には良いと思う。

本来であれば、500万円の配分額で地域活動を支援して、それで終わりではなく、自主審議等しながら地域が活性化していくのが、大きな力になるということで、上越市の地域自治区制度については、全国的にも進んだ制度で、大変期待されている。谷浜・桑取区では、地域の皆さんからいろいろな意見が出過ぎて困るくらいのことになるよう、努力していかなければならない。

特に少子化の問題は、県の予算等で議論されているように、中山間地は大変な状況になってきているので、その辺を含めて皆さんからいろいろなアイデアを出していただければと思う。

地域活動支援事業を提案した人は一所懸命であるが、地域住民が一緒になって参加しているかと言うと、なかなか広がってはいないと思われるということから、あえて概要(案)に「提案者に限らず」という文言が追加されたのだと思う。なるべく多くの人から参加してほしいという意味も込めていると思う。「発展性」についても、どう発展するのかという議論をするのではなく、新しいことはある意味、発展に繋がるので、先進的な取り組みという意味では、どんどん新しいことをやっていただいて良いと思っている。

本年度の協議会は今日が最後かもしれないので、今までのことも含めて、一言ずついただきたいと思う。

【小林和代委員】

私自身は、家から全く出なかったもので、良い経験をさせていただいた。地域活動支援事業に提案しようと思っている人はいると思うが、手続きが複雑なので、声掛けをしてあげると違ってくると思った。

【小林奎一委員】

地域活動支援事業について、前々から思っていたが、根付いたものがなく、毎年一過

性のもが出ています。谷浜・桑取区のいろいろな問題点、農地問題とか、深刻な問題が結構あるが、皆さん、深刻な問題を避けて対処しやすい所に逃げているような気がする。深刻な問題があるので、その辺も深く詰めてどこかに訴えるなり、運動を続けていただきたいと思っている。

【齊藤委員】

地域活動支援事業については、いざ取り組もうと思った時に、公益性、必要性等の要件に合うものは、なかなか難しいという気がした。

【坪田委員】

4年間、委員をやらせていただいたが、提案団体については、年を追うごとに増えてきているのは事実である。ただ、内容が、提案者の皆さんが理解をして、地域協議会の内容、補助金額の内容を熟知してやっているのか。私自身も疑心暗鬼の中で4年間過ごさせていただいたが、こういう制度があるということをもっとアピールしないといけないと思った。その補助金をどのように有意義に使っていくのか。最初に小林和代委員が言ったように、地域活動支援事業に提案したが、手続きが非常に難しい。お金をいただくのだから、それなりの内容を具体的に示さなければならないが、一地域の中においての提案なので、一件や二件でも多く提案してもらうためには、ある程度、手続きが簡素なものであってもいいのかなと思った。提案内容については、この地域協議会内で意見を出しながらきちんと精査できればいいと思った。

【荷屋委員】

地域には、町内会長連絡協議会、桑取・谷浜振興協議会等のいろいろな団体があるので、地域協議会委員と連携を取りながら一つの問題を提起して出していくということからスタートしないと、どうも空回りしていくような気がする。そういうところからやっていけば、もっといろいろなところから提案も出るだろうし、良いお金を使う方法が出るのではないかと思う。

【横田委員】

桑取地区では、イベント的な要望が多く、それなりに地域活動支援事業費を使うことが多かった。委員の皆さんも参加してくれたり、見学に来てくれたり、いろいろな趣向を凝らして、谷浜小学校、潮陵中学校の生徒や児童を巻き込み、上越市外からもお客さんを呼び、継続して事業をしてくれているので、非常に良いことだと思う。だが、担当者も年を取るし、引き継ぎの問題もある。また、一方で、潜在的に取り組む問題が埋も

れているのではないか。その吸い上げ方はどうするのか、いきなり手を挙げて話すのではなく、うまく吸い上げられるような空気を作るというようなことも考えていかないと。思った。毎年、いただいた補助金を全て使えるのかといえば、難しい時もあるかもしれない。

【安達副会長】

先ほど、小林奎一委員も言われたように、大事な問題が何かということの共通認識を持てるような段取りが必要だと思う。1月20日（水）に町内会長連絡協議会があり、そこでいろいろな大事な話が出ていたが、そこでの話が地域協議会に入っていない中で、地域協議会とは何なのか、と感じたりもした。協議会委員に町内会長が入っていなければいけないという訳ではないが、いろいろな団体と連携できるような仕組み作りを丁寧にしていかないと、「地域協議会」という組織の存続価値が勿体ない。

11月に団体の方たちと意見交換会をしたが、そういった取り組みを準備良くして、もう少し意見を出してもらえるような方たちからも集まってもらうということを、定期的にかけていくと、地域協議会の会議も良くなると思っている。地域の中で一番力があるのは町内会長連絡協議会や桑取・谷浜振興協議会だと思うが、学校の後援会等ともメンバーが同じである。そういう団体が何もしないで、地域協議会の場で、いろいろな意見を言っても絵空事のように思うが、そういう所と連携していき、影響力を持って行かないと、地域協議会はずまらなくなってしまう。

【高橋会長】

地域協議会委員自身が、どれだけ地域の情報網を持っているかと言うと、私は厳しいと思っている。町内会長連絡協議会の会長が、地域協議会の会長と同一人物になることを避けるため、町内会長連絡協議会の副会長だった私が、地域協議会に関わるようになった。その時の町内会長も何人か協議会委員だったが、町内会長は交替するので、今言われたように、他の団体と、どう連携していくかということになる。

町場の町内会長協議会というのは、頻繁に会議をしているようだが、谷浜地区も、かつては、県道の整備等で頻繁に会議をしていたが、大きな課題がなくなってから、年1回になってしまった。逆に町内会長連絡協議会が地域協議会を利用しながら、何かイベントをやるというように、これからは双方の努力が必要な気がする。

私は、学校後援会の副会長をしており、地域協議会とも何らかのパイプを作れるようにしているが、なかなかうまくいっていない責任者の一人と言える。

地域活動支援事業というのは、村山市長が市税の200億円から1割を使い、2億円を事業費とした。その2億円を行政ではなく、地域の皆さんが使い道を考えるということで、私は、市の税金が身近になった気がした。みんなで市税の使い道を考え、税金だから無駄使いはしないようにきちんと話し合いをしながら進められたので、会議としては、良かったと思っている。

地域協議会では、地域独自の自主的審議事項も活発にすることが大事だという意見もあるので、次期委員へ、どのように引き継いでいくかが大事だと思う。是非、皆さんからも協力していただきたい。

【安達副会長】

やはり、農業や耕作放棄地の問題になってくると、当地区には農家組合がある。こちらでも真剣に考えていると思うので、話を聞いてみたい。

【高橋会長】

団体として、存在価値を発揮しながら、地域協議会に問題点を提案してくれば良いのではないかと思う。

芽がないことはない。もう少し、お互いの連携を強められれば良いと思う。

3月6日（日）の活動報告会には、多くの町内会長さんから出ていただけると思うので、その中で、我々から地域の皆さんや団体の皆さんに情報提供し、地域の皆さんからも地域協議会をうまく活用していただくことが大事だと思う。

では、平成28年度の採択方針等は、資料No.2のとおりで問題ないと思うので、それで決定したいと思う。

次に、「その他」について、事務局から何かあるか。

【星野主任】

次回協議会での案件等は決まっていないため、決まり次第、案内させていただく。

- ・委員改選について説明

【高橋会長】

委員改選については、皆さんからも自薦・他薦をしていただきたいと思っている。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。